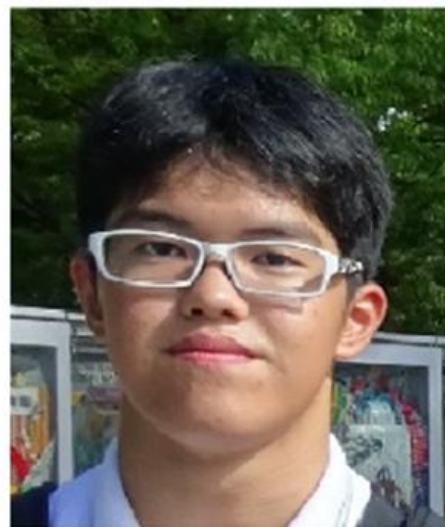


題名 広島から学ぶ

鹿沼市立東中学校 (氏名) 伊藤 輝



今までの自分は広島・原爆について、先輩方から聞いたことしか理解しておらず、戦争などの恐ろしさをイマイチよく分かっていませんでした。ですが、旧日の平和記念資料館見学の焼けた服、中身が無くなった弁当、熱線などに悩む被害者の画像を見て、想像したもの以上の何かを感じ、心に後ずさりしました。愛情こめて作ってくれた弁当を食べようとした、仲の良い友達と遊んでいた。今では当たり前のように楽しい一時が一瞬で消えてしまった。考えたことのないことを想像しました。広島に行くにあたり僕は、戦争がないから平和であるとは限らない。けれども戦争が起きてしまえば平和ではない。では平和とは何か？と自分自身に問いかけていました。平和とは平らな和やか？つまり、誰もが一定以上の執拗で和やかであることではないかと読み取る。と同時に、資料館の悲しげな写真の中で最後に掲示されている被爆者夫婦と被爆後に生まれた子の3人の笑顔の写真を見て、一人でも多くこの写真を見てほしい、広島を訪ねてほしいと思いました。